

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームみんなの家 (はまなす)	評価実施年月日	平成20年12月12日 ~ 平成20年12月20日
評価実施構成員氏名	管理者・計画作成担当者 介護員 介護員 介護員 介護員 介護員 介護員 介護員 介護員	前田 叔亨 本間 友紀 山田 久子 渡辺 章予 中村 由起美 民部田 智子 長岡 恵子 伊藤 洋子 齋藤 百美子	
記録者氏名	前田 叔亨	記録年月日	平成20年12月25日 ~ 平成20年12月26日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>理念は、開設前から採用された職員が集まり、入居者を介護する上での目標として、時間を十分掛けて話し合い作り上げている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>職員の入れ替えに伴い、その都度理念の説明はしているが、十分ではないと思われる。</p>	○	<p>新しい職員には、理念を作成した経過と理念の説明を時間を十分取って説明する。また、長く勤めている職員に対しても、理念の再確認を行っていく。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>各ユニットの入口に理念を掲示している。家族へは入居時に説明させて頂いている。ホーム見学は随時受け入れており、会社主催の夏祭りにも地域の方々の参加、協力をしていただいている。その際に運営していく上での理念を伝えている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>冬季以外はほぼ毎日散歩しており、近所の方と会話したりしている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入し、地域での行事(盆踊り、夏祭り)に参加。ホームの隣の公園を利用した夏祭りを毎年行い、地域の人と交流している。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域の方々に向けての介護相談の窓口となっており、健やかクラブの講師となっている。しかし、代表が主に行っており、職員全体で行っている取り組みではない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	○	現在は制度を活用している入居者はいらっしゃらないが、制度を理解する事は必要であり、これから学習の場を作っていきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	○	実地指導でも、学習会の重要性を説明していただいた。以前から学習会の必要性を感じていたので、早めに関きたいと思う
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者は、苦情や不満等は、その都度直接職員に訴えてきている。しかし、特別に苦情等を訴える場や機会は設けていない。	○	ホーム内に意見箱の設置を検討する。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	2ヶ月に一度、広報を各ユニットで家族に送付すると共に、面会時には暮らしぶり、健康状態等を報告。健康状態に変化がある場合は、その都度連絡を入れる。職員については、広報を通して退職の報告、新入社員についても広報で紹介して面会時に改めて紹介している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	広報にて「ご意見ご要望をお願いします」との内容を表示している。1階玄関に意見箱も設置している。しかし、使用された事はなく、意見箱がある事を知らない可能性もある	○	意見箱が1階にある事を各ユニット玄関に表示し広報でも告知して、気軽に利用できる様に働きかけていく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回、定期的に会議を開いており、職員に自由に意見を出してもらっている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	突発的な出来事に関しては代表の援助を借りている。前もって予定されている事柄に関しては、職員と話し合い必要な人数の調整を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	話しやすく働きやすい職場作りにも努めている。やむを得ず職員が変わる場合は、新入職員が個々の入居者を理解して接するようになる事と、入居者が新入職員に慣れる迄は、体制にゆとりを持たせ、周りのスタッフが配慮出来る様に心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>計画的ではないが、研修会は積極的に参加を促しており、研修終了後には参加者による伝達学習会を行い学びを深めている。</p>	○	今後、研修計画を立て、それに添って職員の参加を進めていく予定
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>研修会や各管理者会議などで情報交換を行い、質の向上に活かしている。しかし、相互訪問等行っていない。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>メンタル面での学習会を一度行った。普段から話しやすい雰囲気を中心掛け、何でも話せる関係になっていると思われる。時には場所を変えての交流会も行っている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>スタッフからの意見・要望は必ず聞き、職員皆で検討し、方向性を示すようにしている。集団としての取り組みを評価し、各自が達成感・向上心を持って働ける様になっている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居前に、ご本人・家族と面談し、施設に入床・病院に入院している方には、その職員とも面談し、生活状況を確認する。本人・家族の不安・悩みを傾聴する。ホーム見学も事前にしてもらい、安心して入居出来る様に配慮している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>家族とは入居前にホーム見学をして頂いて情報収集し、てこれまでの家族の関わり、悩み・不安などを傾聴し、安心して入居を考えられる様にコミュニケーションをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の面談での際に、家族・本人があるか確認し当ホームで行ってきたケアを伝えサービスを提供する様にしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前の面談と、訪問・見学は積極的に来て頂ける様に勧め、本人や家族にホームの雰囲気を感じて頂き、少しずつ職員や他の入居者に馴染んで頂ける様に努力している。情報に頼らず、スタッフ全員で生活を確認しサービスを開始する様にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	当ホームの理念が、笑顔が絶えず共に生活する場として掲げられており、それに沿ったの築きは出来ていると思う。日常的に昔の話を聞いたり、料理や行事的な習慣の事を教えて貰っている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会の時は必ず生活の事は伝え、その上で家族の意見や要望等も頂いている。家族からも面会時の様子を聞き参考になっている。行事の時は家族に参加して頂き、本人と一緒に楽しい時間を過ごして頂いている。広報でも日常生活を伝えている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	フェイスシートや家族・本人の話から、家族関係を把握するように努めている。面会や宿泊は自由にしており、家族が話しやすい雰囲気作りに努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人の面会があったり馴染みの店に外出したりしている。自室には電話が取り付けられ、家族や友人と会話を楽しむ光景も見られる。知人から手紙が届くこともあり、楽しまれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	一人が自由に過ごせる時間は確保しながら、体操などのレクはほぼ全員参加されている。それ以外は、食卓テーブルが主な生活の場でそこに職員も入り、入居者同士が関われる様に支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現段階では、一人の入居者が退去になっているが、その利用者が一番信頼している当ホームの代表が継続的に関わっている。	○	サービスが終了しても必要と思われる入居者に対しては、かかわりを継続していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に声掛けをして、日常生活全般において本人の希望を確認・尊重し、それに沿って援助している。本人が好まない事に関しては、職員が必要と思われる事は、アプローチを変えて本人が納得して頂ける様に働きかける。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や本人、又、施設や病院に入居されている方に関しては、職員からも話を聞いてアセスメントを行い、これまでの生活の把握に努めている。	○	センター方式の『出来る出来ないシート』等を活用し、より詳しいアセスメントを行いたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々、心身の状態を記録に残すようにしている。一日一枚の記録用紙で、食事や排泄、夜間の状況まで確認出来る状態である。その状況に合わせたペースでの生活を送れる様に努めている。しかし、個々の現在出来る事に関しては理解しているが、過去と比較するものが無く記録用紙を遡るしかない。	○	定期的にセンター方式の『暮らしシート』を利用して変化の把握を行い援助して行きたいと思っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月に一度の会議の中で、各ユニット毎の職員間での話し合いを元に作成している。家族の意見を伺い盛り込む様にしている。家族の時に介護支援専門員にも参加してもらっている。	○	センター方式の学習・研修会に参加しながら、アセスメントシートを用いた計画作成を検討している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	○	定期的変更ではなく、項目毎に適切な期間を設定し、見直して行きたい
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	○	ケアプランを確認しながらの実践を行い、記録に残していきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	診療訪問担当看護師とは24時間連絡が取れる様になっている。気兼ねなく連絡が取れる関係になっている。訪問診療の母体病院へもスムーズに相談・受診出来る体制になっている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	管理病院の医師が認知症の理解があり、相談に乗って頂いている。治療についても対応が可能である。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携を行っている。週一回の訪問看護で、日常の生活状態を伝え相談に乗って頂いている。管理病院のナースとも24時間連絡が取れる。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した際には頻回に面会をして本人の状態を確認する。病院とは面会の際に密に連絡を取り、情報交換や相談に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合は家族と共に医師より説明を受け、終末期に向けて相談する。	○	終末期のケアについて職員と十分に話し合い、家族と相談して希望があれば、当ホームで終末期も関わりたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現時点では、終末期のケアを行った事例は無いが、職員は「ご本人の希望があれば、終末期のケアをさせて頂きたい。」という考えで一致している。家族にもその旨をつたえており、かかりつけ医や訪問看護とも相談を行っている。	○	終末期のケアの経験がない為、職員全体で勉強会などに積極的に参加し知識を深めて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>現時点では病院へ転院のケースが一件あるが、その場合は書面等で病院のスタッフに伝えていた。</p>	<p>○</p>	<p>事前に情報を先方に知らせた上で来所して頂き、本人との面会を通して、情報で確認した項目等を含め文書では分かりにくい事柄も確実に情報交換をしていきたい。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者への声掛けにはその人の生活暦を十分考えて行き、特に排泄誘導時には注意をはらって声掛けをする。また、居室に入る際にもノック・声掛けも忘れずに行う。記録は決められた場所に保管している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の認知度に合わせて分かりやすい方法(会話や身振り等)で説明し、入浴時間や服の趣味、外出の希望も無理強いないで待つ姿勢で支援している。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一日の生活については入居者の状態を見て、出来るだけ希望・ペースに合わせて過ごして頂いている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>服装については基本的に本人に選んで頂く様にしている。理美容に関しては希望時、又は定期的に出張をお願いしている。本人の希望により白髪染めも行っている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事の準備は、大根・人参・ジャガイモの皮むきやもやしのヒゲ取り、ゴマすり等も積極的に手伝って頂いており、生き生きと活動されている。片づけについても、下膳はもちろん食器洗い・食器拭きは積極的である。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	病状によりお酒を飲めない方もいるが、それ以外の方には年に数回、お祭りやスタッフが開催する居酒屋等でお酒を楽しんで頂いている。おやつ・飲み物に関しては、身体の病状に応じ考慮しながら楽しんで頂いている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄の時間を記録するシートを利用し、一日を通しての排泄パターンやサイクルを把握してトイレ誘導し、気持ちの良い排泄をして頂けるように支援している。夜間は念の為にリハビリパンツや尿パットを使用するが、定期的に声掛けをしてトイレ誘導している。	○	便が出にくい入居者に関しては牛乳やヨーグルトを勧め、下剤等を使用しないで自然に排便がある様に取り組んでいる
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は基本的に3日に1回の割合で勧めているが、本人の希望に合わせて行い、身体の状態により毎日入浴を勧めている入居者もいる。拒否がある時は、スタッフを変えたり日を改めたりして、気持ち良く入浴して頂ける様に支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々のペースに合わせて休息を取って頂いている。日中、居眠りをされている場合は自室で休んで頂く様にしている。夜間眠れない場合は、少し会話をしたり温かい飲み物等を勧め気分が落ち着くように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	買い物や散歩・囲碁や音楽等ご本人の気持ちを尊重して支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人が管理できる場合は、家族・本人と相談し少額にさせていただく様にしている。管理できない場合は小銭を預かり、買い物時に本人に渡して買い物を楽しんで頂く様にしている。その際のレシートは保管し、家族が確認出来る様になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人一人の希望に応じて買い物や演説会など、出来る限り支援している。ユニットでの対応が困難な場合は運営者を含めて支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	日常の会話の中で外出の希望を聞いたりしているが、「墓参り」や「買い物」等の返答がほとんどである。そのため年間を通して楽しんで貰うために外出行事を考えており、季節に応じた行事を企画している。(ぶどう狩り、さくらんぼ狩り、演劇鑑賞、お花見・夏祭り・雪祭り 等)。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望がある場合はその都度ホームの電話を使用して頂いている。手紙が届く事もあり大変喜ばれている。また、それぞれの居室に電話が設置出来る様になっており、設置している方は家族や知人と会話を楽しまれている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	活動時間(6時～21時)の面会は、家族・友人を含め自由にして頂いている。来所の際にはお茶や茶菓子をお出しし、ゆっくり過ごしていただける様に配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	当ホームでは、身体拘束は絶対にしないという方針である。しかし、身体拘束に関しての学習会・勉強会は十分ではなく、職員全体が身体拘束を十分に理解していない可能性もある。	○	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について学習をする予定である。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室に鍵はついていない。ユニットの玄関は自動ドアで、ボタンを押すと開く仕組みである。入居者・家族は自由にドアを開け、出入り出来る様になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は職員が一箇所(台所等)に固まらず、誰か一人が必ずホールに留まり入居者を見守る様に心掛けている。その場を離れる際には他の職員に声掛けをする様にしている。夜間は定期的に居室を訪問し安眠・安全を確認している。また、夜間の記録はホール全体が見渡せる場所できるように心掛けている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	少人数ではあるが、認知症の状態に応じハサミを本人管理している入居者もいる。内服薬はスタッフルームで管理しているが、湿布や塗り薬は本人が管理している場合もある。包丁は台所下の扉の裏に保管しているが、職員の薄い夜間は箱に入れ、入居者の手や目の届かない場所に保管している。洗剤は脱衣所の目の届かない場所に保管している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故は、転倒と転倒以外に分けて報告している。事故が起きた場合は、朝・夕のミーティング時に職員に伝え情報を共有している。月一回のユニット会議でも検証し、以降の事故防止について話合っている。また新聞などで取り上げられたグループホームでの事故や火災等について、会議で意見交換を行い、当ホームではどう対応するかを話しあっている。行方不明が起きた時に、すぐにSOSネットワークを利用できる様に準備している。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	学習会を行い、不十分ではあるがマニュアルも作成し設置してある。応急手当の定期的な訓練は行っていない。	○	訓練を行っていない職員もいる為、定期的な訓練を行ってほしい
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回防火訓練を行い、入居者さんも参加して避難方法を繰り返し練習している。しかし、夜間は各ユニット一人ずつで避難に不安がある。事業所の向かいにある、24時間営業のガソリンスタンドに協力をお願いしている。	○	火災通報システムで、ボタンを押すと自動的に事業所周辺に住む職員に連絡が行くシステムがあり、導入する予定。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族の来訪時や特に変化があった時は、その都度本人の状態を伝え、起こり得る危険を説明し、ホームでの援助方法等を家族と十分に話し合い了解を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	表情や動作、食欲等の変化を見逃さないよう注意し、異変があった場合はバイタルチェックして記録に残し、朝・夕のミーティングで話し合い情報を共有している。また、異常が見られた場合は訪問診療担当看護師に連絡し、受診等の指示を仰いでいる。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人一人のファイルに処方内容を保管し、職員がいつでも確認出来る状態になっている。薬の変更や追加の際には、朝・夕のミーティング時に効能と副作用を共に伝え情報を共有している。	○	複数の病院から薬が出ている場合は、見本として一つ袋に貼っておくと分かりやすいため、今後改善していきたい
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分摂取量をチェックして記録し多く摂っていただくとともに、毎日の体操や散歩で体を動かして頂き、便秘の予防と改善に努めている。便秘の方には、医師と相談し下剤でのコントロールもしている。	○	食事を繊維物を中心にしたたり、牛乳やヨーグルトを摂って頂いたり工夫して、便秘を解消していきたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後全員に歯磨きを促し、自力での口腔ケアが不十分な入居者さんには、歯磨きや義歯の手入れ等支援を行い、口腔内の清潔保持の徹底を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	野菜を中心に栄養バランスを考えて献立を作成している。食事が少ない入居者に対しては、本人が好んで食べて頂ける様に工夫して出している。また、個人の状態により、きざみ食やとろみ食、お粥等食べ易いように工夫している。水分量は、全員分チェックしており、水分摂取に拒否がある方については、水分を少しずつ出したり、ゼリーを勧める等工夫している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成し、職員がいつでも確認出来る様にユニット毎に設置してある。外出後には職員、入居者共に手洗い、うがいを徹底して行っている。トイレ・手すり・ドアノブ等の消毒や、便・嘔吐物の汚染物の処理には次亜塩素酸ナトリウムを使用して、感染症予防に努めている。インフルエンザの予防接種は入居者・職員全員が受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具(包丁、まな板)は毎日除菌消毒を行っている。冷蔵庫は週に一度掃除・除菌を行っている。 食材は配達して頂いていた時は、賞味期限・鮮度を確認し、必要なら返品・交換をしていた。現在は基本的に2日に1回、近くのスーパーに買い物に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	当グループホームは2、3階にあり1階がデイ・サービスとなっている為、戸外からのアプローチは家庭的で親しみやすいとは言いきれない。各ユニットの玄関には表札を付けたり造花を飾ったりと、少しでも温かみが出るように工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間の壁には行事(お祭り・外出・誕生会等)の写真を貼ったり、季節に合った飾りつけ(七夕・十五夜・クリスマス・正月等)をして、雰囲気味わえるように配慮している。TVの音も時間に合わせて音量を調節している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	TVの前にはソファが窓際には長いすが配置されており、自由にそのスペースを使うことができる。利用者同士でTVを見たり会話したりして過ごされている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際には本人・家族と相談しながら、出来る限り使い慣れた物や好みのものを持参して頂き、居心地の良い安心して生活出来る部屋になるように努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	ベランダや居室の窓を開け、換気に努めている。ホールに温度計・湿度計があり、それを確認しながら加湿器等も利用してこまめに空調を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	全体がバリアフリーになっており、ホールの壁やトイレも手すりが付いている。車椅子様の広いトイレも2つ設置されている。浴室にも手すりが付いており、床は滑りにくい素材を使用している。入居者の方が安全に生活を送れる工夫をしている。しかし、ホールを横切る際に特につかまる物が無く転倒の危険が高い為、そこを移動する際には職員が側について安全に移動していただいている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレには「トイレ」の表示を各居室に表札を貼り、入居者の混乱や不安を少なくする工夫をしている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の周辺は野菜などを植える事が出来、トマトやナス等を植えて散歩の途中に観察したりしている。ベランダは鉢植えを置いたり、皆で漬けた漬物を保管したりして活用している。また、天気の良い日はベランダから景色を眺めることもある。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている <input checked="" type="radio"/>②少しずつ増えている <input type="radio"/>③あまり増えていない <input type="radio"/>④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input checked="" type="radio"/>①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/>②職員の2/3くらいが <input type="radio"/>③職員の1/3くらいが <input type="radio"/>④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/>①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/>②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/>③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/>④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/>①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/>②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/>③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/>④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・要介護5の入居者が一人いらっしゃるが、日中は離床され他の入居者と一緒に生活出来るように支援している。
- ・入居前に転倒を繰り返し顔等を何度もぶつけた方がいるが、歩行運動等により転倒が減少した。また、食器拭きや洗濯畳み等を手伝って頂く事により、転倒した場合でも先に手が出るようになり、大きなケガをしなくなった。
- ・入居当時、介助全てに拒否があり居室にずっとこもっていた方がいるが、少しずつ介助させて頂ける様になり、最初は月に2回程度であった入浴も、現在では週に2回程度入って頂ける様になった。